# 特集 Gマーク認定事業所紹介

# トラックドライバーの誇りとなる「Gマーク」

## 事故件数「ゼロ」を究極の目標に安全対策を深化

2019年度の「貨物自動車運送事業安全性評価事業（Gマーク制度）」が本格的にスタートした（4面に制度概要）。

『広報とらっく』では、Gマーク認定を受けている事業所を訪問し、Gマーク認定取得の経緯や安全性向上への取り組み、またGマーク取得のメリットなどを取材した。

今回は、事故防止活動に営業所を挙げて果敢に挑戦を続け、安全性向上への積極的な取り組みが評価され、平成29年度にGマーク関東運輸局長表彰を受けた、群馬県前橋市の大島倉庫運輸㈲（関口宣男代表取締役）本社営業所を紹介する。

### 大島倉庫運輸有限会社本社営業所（群馬県前橋市）

安全性向上への積極的な取り組みが評価され、平成29年度にGマーク関東運輸局長表彰を受賞した同社

関口　宣男
代表取締役

### ▽荷主が願った「さらなる安全性向上」期待に応えるべくGマーク取得を決意

大島倉庫運輸㈲は、群馬県内を中心に、モップやマットなどの清掃用品、日用品、またアルミサッシなどの配送を行っている運送会社である。

さて、同社がGマーク取得に動き出したのは、平成17年のことである。その当時、同社では安全や環境への取り組みの強化を図っていた。そのきっかけとなったのは、15年にある荷主から言われた「運送会社として、もっとできることがあるのではないか」という言葉であった。

群馬県内にも数多くの運送会社が存在しており、2年のいわゆる「物流二法」施行により運送会社間の競争が激化していた。そうした中で、同社が道路という公共の財産を利用して運送業務を行っている運送会社として、荷主や地域社会から信頼を勝ち取り、事業を継続していくためには、安全対策や環境対策を強化していくことが必要不可欠であった。

荷主からの期待に応えるべく、同社では安全対策・環境対策の強化に乗り出した。まず、16年10月に社員に対して環境対策の強化を宣言。17年3月にグリーン経営認証を取得した。それに続き、安全対策の強化策について検討を行っていたところ、地元の群馬県トラック協会からGマーク取得に関する説明会の案内があった。関口社長は説明会に参加し、Gマークの有用性について話を聞いた。そして、自社の安全性向上に繋げるために、関口社長はGマーク取得に取り組むことを決意した。

「当社では当時、大きな事故こそ発生していなかったものの、自損事故などの些細な事故が時々発生していました。より信頼度の高い事業者となるためには、事故を撲滅していくことが求められます。営業所の安全性の高さを証明するGマークを取得し、ドライバーのモチベーションアップに繋げることで、こうした事故を少しでも減らしていきたいと考え、Gマーク取得を決めました」（関口社長）

後述する通り、同社では既に安全性向上に資する取り組みを実施していたこともあり、Gマーク取得にあたって新たに始めた取り組みはなかったという。17年12月、同社本社営業所はGマークを取得することができた。

### ▽「勉強会」ファイルがドライバーの財産に奮起を促してエコドライブを強化

それでは、同社における安全性向上への取り組みについてみていこう。

同社における安全性向上への取り組みは、昭和60年に先代社長である同社の創業者が亡くなり、関口社長が社業を引き継いだ頃に端を発する。その当時、社内の管理体制はまだ不十分だったという。昭和55年には、関越自動車道が前橋インターチェンジ（IC）まで開通したこともあり、特に前橋ICから埼玉県方面へと関越自動車道を走行する運行で車両の速度超過がみられたとともに、ドライバーの多くは燃費改善への意識が希薄だった。

そこで、関口社長は車両にタコメーターを設置し、チャート紙を逐一確認して各車両の運行時の走行速度や燃費値などを記録。その上で、ドライバーに速度遵守・燃費改善への意識を植え付けるために、「速度超過のないドライバーに対しては、その報奨として米10キログラムを毎月進呈する」と宣言した。それをきっかけに、ドライバーの間に制限速度遵守の動きが一気に広がった。

走行速度を控えめにすることにより、余裕のある運転操作が可能となるとともに、車両の燃費向上にも繋がる。現在でも同報奨は継続して行われており、いまではドライバー全員が米を獲得しているという。なお、制限速度遵守の意識が完全に浸透していることもあり、現在同社での米の進呈は年2回となっている。

それに続き、平成10年からはドライバーを集めての勉強会を開催している（現在は4月・8月・12月の年3回開催）。

ドライバーの安全意識高揚に繋がる「勉強会」

同社の勉強会では、各ドライバーに自分専用のファイルを使用させている。社員には、入社時にファイルが手渡される。

勉強会に出席したドライバーは、そのファイルに勉強会で使用した配布資料などを綴っていき、社内の所定の場所に保管してもらう。もしも勉強会で学んだ内容を振り返りたい時には、いつでも自分のファイルで再確認できるようにしているため、安全知識の定着に繋がっているという。配布資料でいっぱいになったファイルは、まさにそのドライバーの「財産」であるといってもいいだろう。なお、勉強会終了後にはドライバーに感想のコメントを書いてもらい、学習内容の理解・定着を確認するようにしている。

ところで、グリーン経営認証取得に際しては、勉強会の中で燃費管理の重要性について再認識してもらうための取り組みを行ったという。関口社長は勉強会の席で、担当ドライバーの名前を隠した上で各車両の燃費値を書き出した表を見せ、「自分の担当する車だと思うところに、自分の名前を書いてください」と促した。ドライバーが一通り名前を書き終えると、関口社長は隠していた各車両の担当ドライバーの名前を見せた。そこで自分の車両の実際の燃費値を知るとともに、多くのドライバーが、自らの燃費改善への取り組みの不十分さを痛感することになったのである。これがきっかけとなって、ドライバーたちは大いに奮起。それぞれのドライバーが自分たちで担当車両の燃費計算を行い、燃費改善への取り組みを進めていったという。

「実際の燃費を伝えたことで、ドライバーが燃費改善に積極的に取り組むようになりました。エコドライブの励行が安全運転にも繋がり、事故防止の面で大きな効果が出ています。5年ほど前からは、年度始めの4月に行う勉強会で前年度の燃費ランキングの発表を行い、優秀なドライバーへの表彰を行っています」（同）

### ▽自分で考える契機となる「改善」研究会安全への意識を高めた「スローガン」

さて、この勉強会の中で3年ほど前から実施しているのが、「みんなで『改善』研究会」である。

これは、同社のドライバー18人を3つの班（各6人）に分けて実施するものである。同研究会では、毎回直近に発生した交通事故について1つ取り上げ（左図）、その事故について「なぜ発生したか」「どうしたら防げるか」をドライバーそれぞれが考え、グループごとに意見をまとめて発表を行うものである。

「グループで取り組んでいく『改善』研究会を始めてからは、全てのドライバーが前向きに取り組むようになり、自発的にいろいろな意見を出してくれるようになりました。『改善』研究会を通じて、事故防止に向けて様々な観点から考えることができるようになったことで、それぞれのドライバーが日頃の運行の中で危険を感じるような場面に出会った際にも、より安全な運転操作を行うことができるようになっています」（同）

みんなで「改善」
交差点事故編

配信日：平成29年05月18日
大島倉庫運輸有限会社

事例：Aさんは、お客様の店へ納品の為向かっていました。普段から走り慣れている道路（運転経験は浅くて広くない、センターラインが無いすれ違いでは徐行を要する）をいつもの様に走っていました。もうすぐお客様の店に到着と思ったその時、見通しの悪い交差点右方向より来た車を発見（一時不停止の車）ハットし急ブレーキを踏んだが間に合わず衝突してしまいました。
Aさんは、4ｔトラック、相手車は軽ワンボックス（乗員運転者のみ）相手車は跳ね飛ばされた状況、側溝でバウンドして田んぼに車前部を落し停車しました。
Aさんは、相手車運転手さんの安否を確認後、救急車を呼び、警察に連絡し、事故処理を行った。相手方は、肋骨１本骨折・数か所の打撲。（通院）
後にAさん、腰に違和感を感じ医者に通院中。（仕事は可）

＜ドラレコ画像＞

1.「交差点事故」の発生原因は？
2.どうしたら「交差点事故」の発生を防げるか？

「改善」研究会では、近年の事故事例を取り上げ、事故防止対策を話し合い、発表している

### ▽長年の活動が評価され局長表彰を受賞志を高く持ち安全輸送の継続を目指す

Gマーク取得以降、同社ではドライバーの安全意識が格段に高まっているという。

「当社では環境対策と安全対策の強化を図るために、Gマーク取得とグリーン経営認証取得を並行して行い、取得後もそれぞれ取り組みを積極的に行ってきました。近年では、こうした取り組みについて荷主からご評価いただくことも増えてきました。当社のドライバーたちも、『自分たちはGマーク認定事業所で仕事をしている』という誇りをもって、日々の運行に取り組んでいます」（同）

同社のこうした取り組みが実を結び、29年には関東運輸局から、Gマークを10年連続取得している等のきわめて優良な認定事業所に贈られる地方運輸局長表彰を受賞することに至った。

「当社では、事故件数の目標を必ず『ゼロ』に定めています。目標が高くなければ、ドライバーの志も高くはならず、そのために日々の安全への取り組みが疎かなものになってしまいます。Gマーク運輸局長表彰を頂戴した当社としては、今後も当然、事故件数『ゼロ』を究極の目標に、安全輸送実現への努力を継続的に続けていきたいと考えています」（同）

ドライバーに向けて安全運行の大切さを訴える「スローガン」

なお、新年度のスローガンは、「おこたるな！　正しい手順と基本動作」となっている。

**会社概要**

**大島倉庫運輸㈲**
［代表取締役　関口　宣男］

| | |
|---|---|
| 本　　社 | 群馬県前橋市下大島町573 |
| 設　　立 | 昭和46年4月9日 |
| 資 本 金 | 500万円 |
| 従業員数 | 21人（うちドライバー18人） |
| 車 両 数 | 21台 |